

第 11 章. 住民要望の整理と協議

11-1. 住民や関連団体との協議

主な協議団体	主な内容
南部徳洲会病院	<p>民間送迎バスの活用</p> <p>2012年に南部徳洲会病院と八重瀬町社会福祉課との間で、「八重瀬町送迎バス活用モデル事業」が締結され、病院に通院する送迎バスの空席を活用して65歳以上を対象にした一般の利用者の乗降を可能にしている。</p> <p>□地域の交通手段として活用する可能性について</p> <p>継続して空席を活用した送迎サービスを実施しているが、利用者が増えておらず、告知不足などの課題を要している。そこで、活用の領域を広げるため、南部徳洲会病院とともに協議し、運行方法やルートなどの見直しを検討していく。</p> <p>[主な見直し内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①通院客の利便性を損なわず一般利用者数の増加を図る ②現行のルート ③広報などの方法
八重瀬町教育委員会	<p>白川小学校で運行されているスクールバスの活用</p> <p>□地域の交通手段として活用する可能性について</p> <p>小学校の送迎バスは、学年次ごとに帰宅時間が違うため、日中の運行時間帯に隙間がなく、年間を通じた学校行事などにも活用されているため、地域の交通手段としての活用は難しい。</p> <p>[主な理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①運転ドライバーの不足 ②児童の安全面などへの対策 ③児童生徒や保護者などへの理解はむずかし
八重瀬町社会福祉協議会	<p>デイサービス用の送迎バス（福祉バス）</p> <p>□地域の交通手段として活用する可能性について</p> <p>社会福祉協議会で運行している送迎バスは、協議会で実施されている「一般高齢介護予防通所事業」のデイサービスで活用されている。日時や曜日を分けて、地域別にデイサービスが実施されており、地域の交通手段としての活用は難しい。</p> <p>[主な理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①運転ドライバー不足（職員が運転）

11-2. 関係者との協議

1) 新たな公共交通の導入に向けた協議

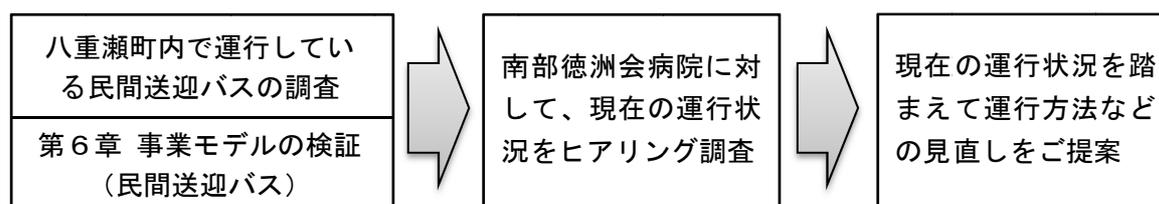
本調査を実施するにあたり、新たな公共交通の導入に向けて検討スキームが、担当課および担当者との間で検討された。主な内容は、町内の公共交通を検討する上で、コミュニティバスの導入を前提とすることなく、あらゆる手段を検討したうえで、今後の導入計画を検討していくことにいった。

そこで、「町内にある既存の交通手段」を整理し、また、「新たな公共交通として想定される交通手段」の両面から、それぞれの法令や制限および運行に必要な要件や特徴などをまとめ、これらを比較検討していくことで、八重瀬町内の住民の移動特性や既存の交通手段の利用度および、県内外の事例などとも比較を行いながら、次に示す方向性で、今後引き続き検討していくことにいった。

①町内にある既存の交通手段の活用を検討

町内を運行する「既存」の地域の交通手段として、民間送迎バスやスクールバス、福祉バスなどが運行されており、それぞれの運行状況などを関係機関などにヒアリングを実施し、地域住民が利用できる可能性について検討した。その中で、最も可能性が高いものが「民間の送迎バス」で、地域内で送迎を行っている事業者は「8事業者」にのぼった。特に「南部徳洲会病院」様が運行している「病院送迎バス（白ナンバー）：無償運行」は、八重瀬町と南部徳洲会病院との間で、平成12年に「八重瀬町送迎バス活用モデル事業」を締結しており、これまで途切れなく運行され、また、通院以外で地域内を移動する一般乗降を65歳以上（町社会福祉課で乗車券を発行）に対して行われてきた。しかし、各地域と病院間を結ぶルート上では、乗車数（利用者数）の伸び悩みがあり、その原因として、「広報不足」や「ルートの利便性」などの課題があげられた。

実施された主な検討フロー図



[今後について]

南部徳洲会病院とのヒアリング調査や、課内会議に諮り主に次のことが検討された。

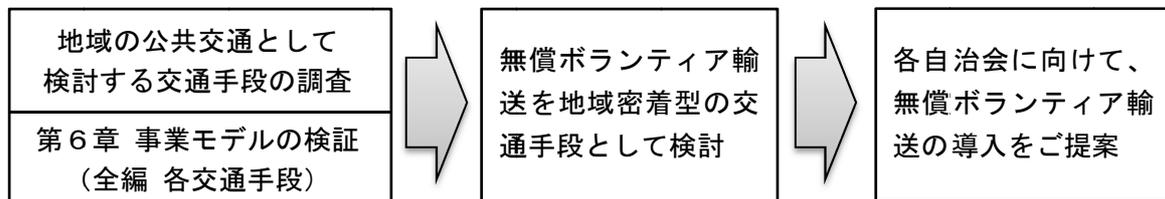
- ・現行ルートの運行実績（バス停や地域ごと）から、運行に伴う地域ごとの特性を整理した。
- ・現行ルートに限定せず、「複数の運行コース案を検討」し、それぞれの運行に伴う地域ごとの利便性や特徴などを整理した。
- ・これまで検討されてきた「複数のコース案」から、現行ルートの見直しによって最も利便性が高く、利用者数の増加に期待できる「運行ルート見直し案」を整理した。
- ・「運行ルート見直し案」から見えてくる、「施設側」「通院者側」「一般利用者側」の視点からも整理し、引き続き検証を行いながら「南部徳洲会病院」へ「運行コース見直し」のご提案への基礎づくりを行った。

②町内の地域特性などを踏まえ、さまざまな公共交通手段を検討

昨年度実施された「八重瀬町地域公共交通導入基礎調査」によって、住民の意向や既存の公共交通（路線バス）の利用実態および自家用車に依存する八重瀬町住民の移動特性や地域特性などを踏まえながら、新たな公共交通（主にコミュニティバスやデマンドバス、自家用車有償運送、ボランティア輸送など）、多様な交通手段について検討した。主にコミュニティバスやデマンドバスは、沖縄県内でも既に導入されており、これまでの運行状況などを確認し、導入に至る法令や制限、運行に必要な要件や費用など検討した。また、市町村が導入できる「自家用車有償運送」の形態は、既存の路線バスの運行ルートの見直しなどを検証し、これに代わる手段として位置づけられていることから、これを把握しつつ導入の可能性について検証した。

中でも、「ボランティア輸送」は、法的な制限（登録や認可が不要）がなく、無償運行であることを条件に運行できるなど、導入障壁の低さから、最も早期に導入できる可能性がある交通手段であることが整理された。

実施された主な検討フロー図



【今後について】

各地域の自治会を対象に、複数に分けて「ボランティア輸送」の特徴や導入方法について説明会を実施した。主に自治会長からのヒアリング（意見交換）などから主に次のような要望や課題があげられた。また、名称を「高齢者お出かけサポート事業」と名称をつけた。

- ・車両や燃料費などの費用は行政側で負担され、貸与された車両を使用し、地域住民が共同で車両を維持、管理および使用できることは、これから更に進展が進む高齢化による「自動車免許証の自主返納者」の増加に対応できる「地域へ導入される新たな交通手段」として高い評価を得られた。
- ・導入当初は、1台の車両を地域間で「シェアリング（共同利用）」を図ることで、導入意欲の高い地域から試験的な導入を実施し、運行にともなうルールづくりや運転ドライバーなどの募集、保管方法や利用できる範囲（原則的に町内）などを定めていくことが確認された。
- ・最も大きな課題として多いのは、「運転ドライバー」の確保、「運行ルールの策定」「保険などの安全対策」などがあげられた。自治会を中心に、地域で運行される「ボランティア輸送」は、「地域住民の理解と協働」および「積極的な参加と有効活用」が要であり、以下の点について今後の課題があげられた。

【主な課題】

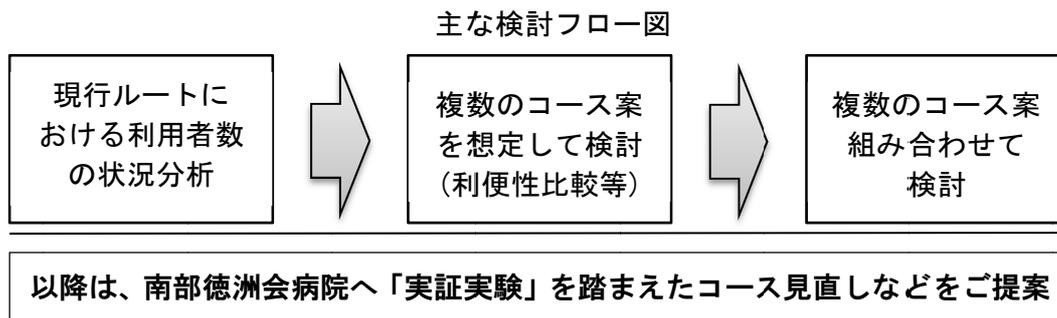
- ・ボランティア輸送の確保（地域によって高齢者も農業に従事しており担い手不足）
- ・地域で運行管理を実施する人材がない（受付や手配などの事務的な業務）
- ・毎週または一定期間を継続して運行できる体制づくりへの不安
- ・1台の車両をシェアリングして利用できる「シェア可能な自治会（または地域単位）」の共用できる活用範囲 など

11-3. 次年度の計画について

本年度に検討されたあらゆる交通手段の中から、最も導入可能性の高い以下の事業について実施する予定があげられた。

①南部徳洲会病院の送迎バスの見直し

運行ルートや運行ダイヤの見直しに加えて、町内住民への広報活動や利用促進に向けた取り組みを、本町および南部徳洲会病院がともに連携し、次年度「令和5年度」に実施していくこととなった。また、運行ルートの見直し案については、次年度においてご提案し、引き続き検討を図ることとなった。



②ボランティア輸送「高齢者お出かけサポート事業」

本年度に実施された各自治会への事業説明会を踏まえて、今後の取り組みや導入検討を行うことができる自治会を募集して、運行ルールや運行方法などを検証する「実証実験」の導入を図ることとなった。

